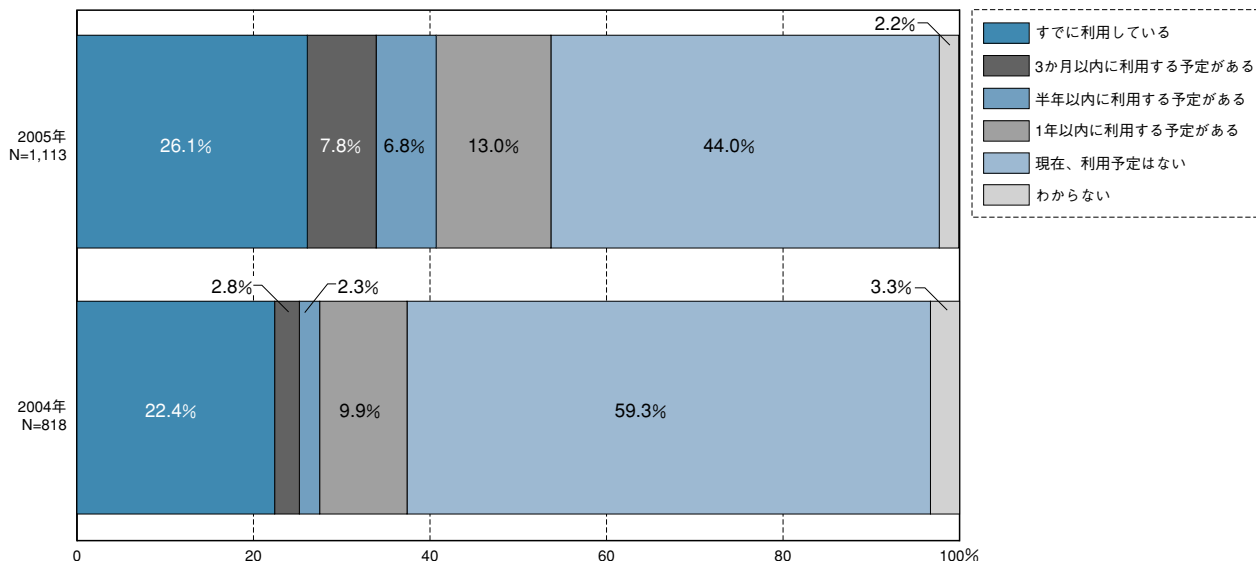


IP電話

IP電話利用企業は昨年の4%増、利用予定企業も2倍に

資料3-2-1 IP電話の利用有無 (2004年-2005年)

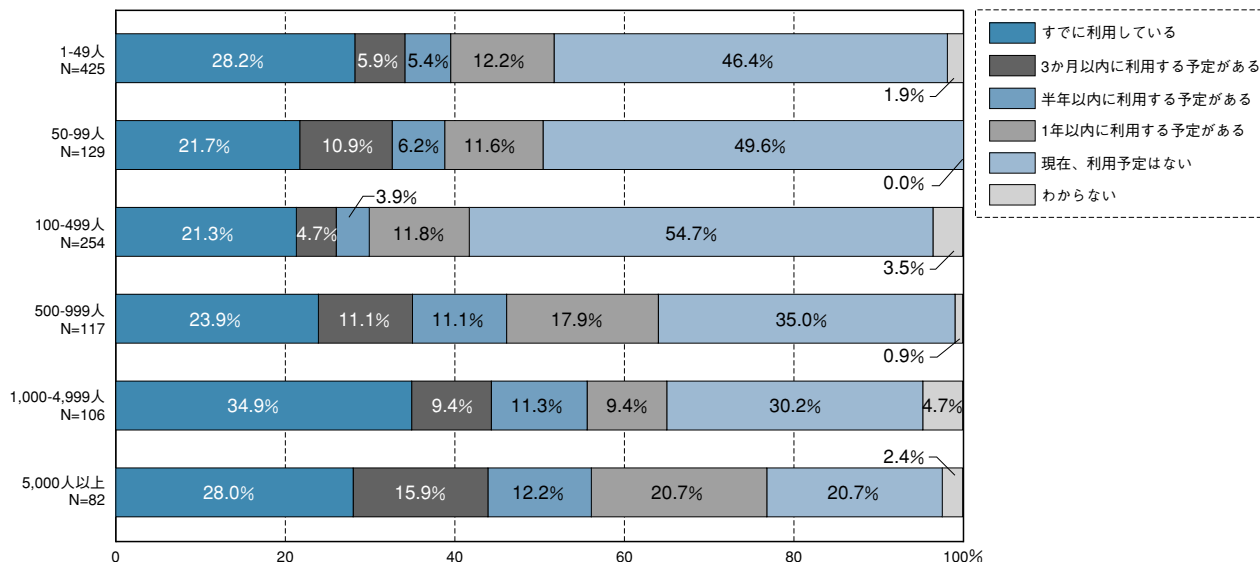


IP電話の利用企業は昨年と比較すると約4%増加している。また、予定がある企業も昨年の約2倍増である。IP電話のメリットを認め始めて導入を決めている企業のニーズと、IP電話提供会社が増えたことや供給内容が明確になったことで顧客の理解を獲得し始めたことがマッチしたといえる。今後、さらにIP電話の導入企業が増えると予測される。

©Access Media/
impress,2005

小規模と大規模企業で高い導入率

資料3-2-2 従業員規模別 IP電話の利用有無



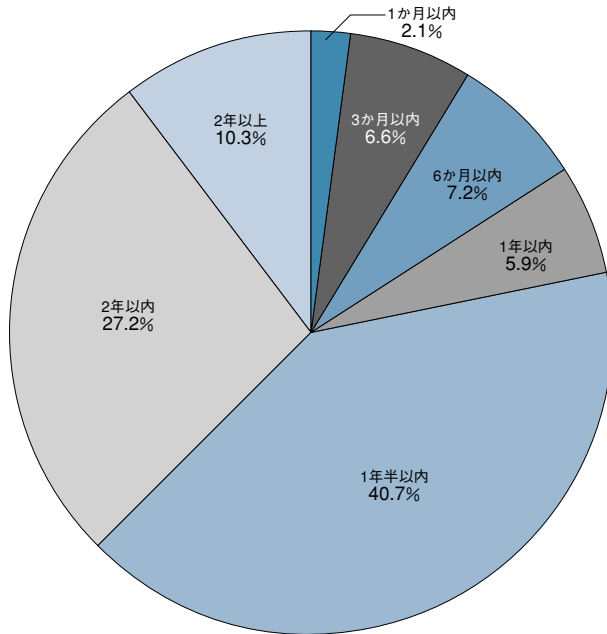
従業員規模では、1-49人の小規模と1,000人以上の大規模企業における導入率が高い。小規模では特に10人未満のSOHOサイズでの導入率が高い。PBXを導入しておらず、手軽にIP電話の導入作業を行えることが理由として考えられる。また、大規模では大幅なコスト削減を考慮した導入であることがうかがえる。

©Access Media/
impress,2005

IP電話

利用者の6割以上がここ1年半以内に導入

資料3-2-3 IP電話の利用歴 N=290

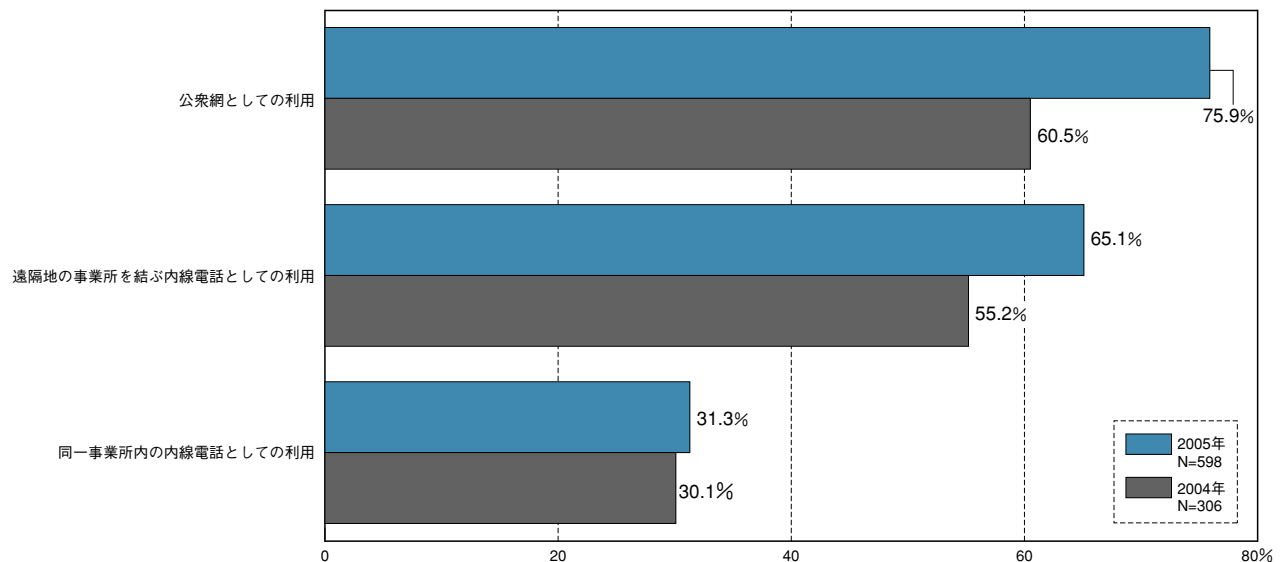


©Access Media/impress,2005

IP電話の導入者290サンプルに、IP電話の利用歴を聞いたところ、「1年半以内」が40.7%と「1か月以内」から合わせると、6割以上がここ1年半以内に導入している新規利用者であることがわかる。「2年以上」のIP電話利用先駆者は10.3%いる。

公衆網としての利用が75.9%

資料3-2-4 利用者と予定者に聞いたIP電話の利用形態（2004年-2005年）（複数回答）



IP電話利用者と利用予定者598サンプルに、IP電話の利用形態について聞いたグラフである。「公衆網としての利用」が75.9%で最も高い。利用歴別で見ると、1年以内の新規利用者は「同一事業所内の内線電話としての利用」が相対的に高いのが特徴である。

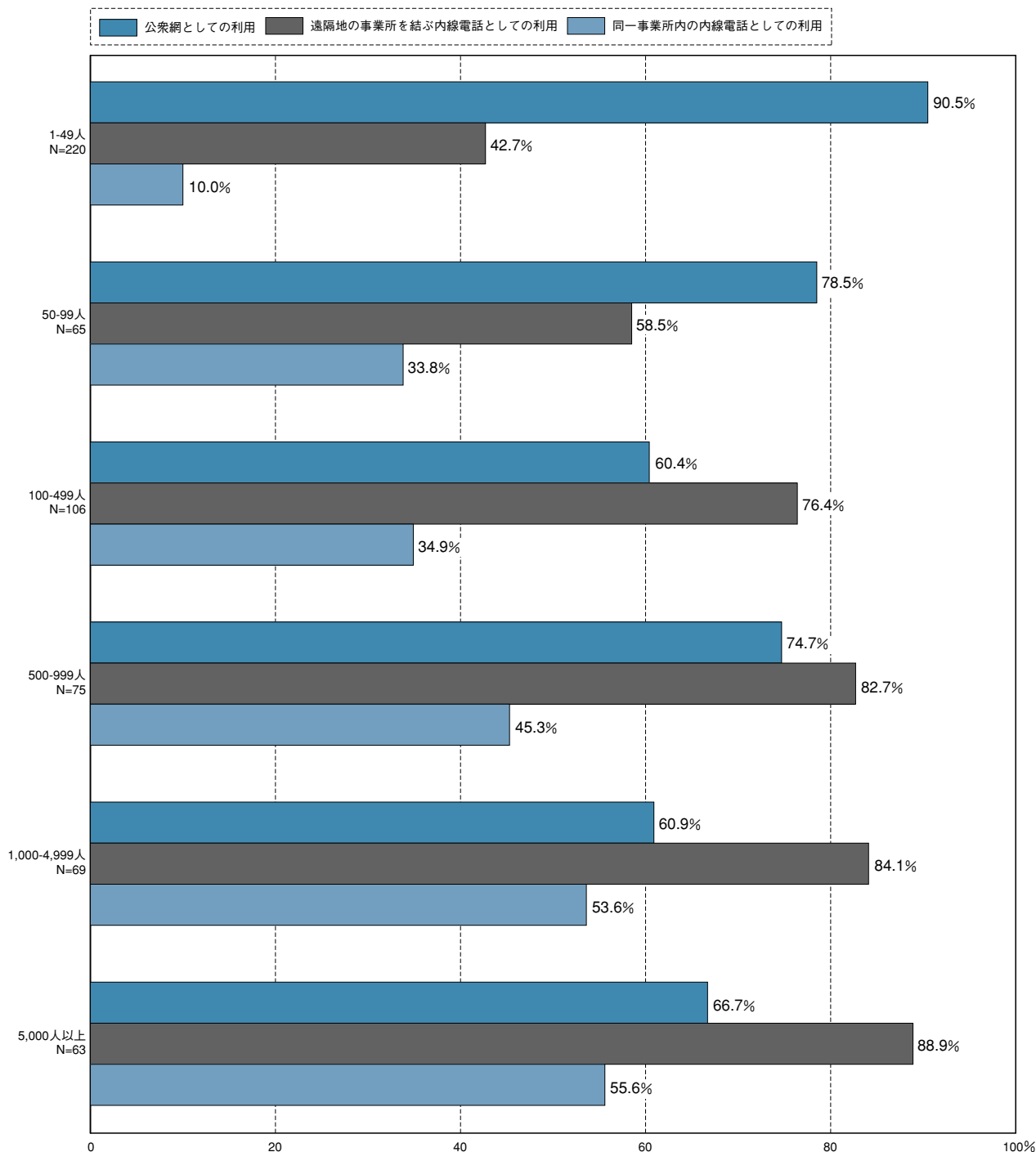
©Access Media/impress,2005

IP電話

50人以下の小規模企業では9割が公衆網として利用

資料3-2-5 従業員規模別 利用者と予定者に聞いたIP電話の利用形態（複数回答）

第3部
企業利用動向



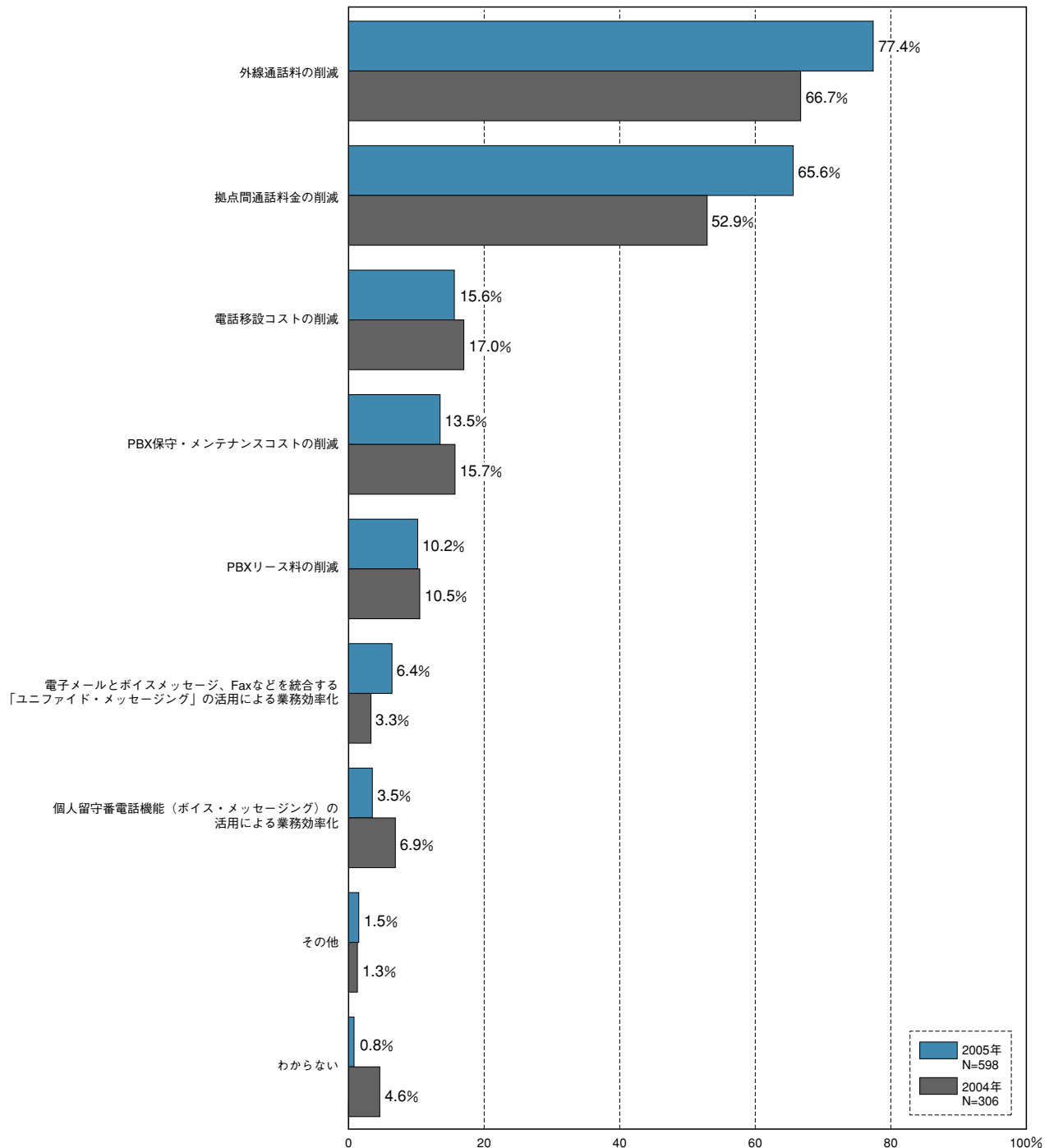
従業員規模別では、IP電話の利用形態に違いがみられる。1-49人の小規模では、9割が公衆網としての利用が主である。一方100人以上の従業員規模では、「遠隔地の事業所を結ぶ内線電話としての利用」、「同一事業所内の内線電話としての利用」が相対的に高く、事業所や社内電話通信コスト削減を考慮した利用であることがうかがえる。

©Access Media/
impress,2005

IP電話

導入理由および期待効果は通話料金の削減を重視

資料3-2-6 利用者と予定者に聞いたIP電話の導入理由または期待効果（2004年-2005年）（複数回答）



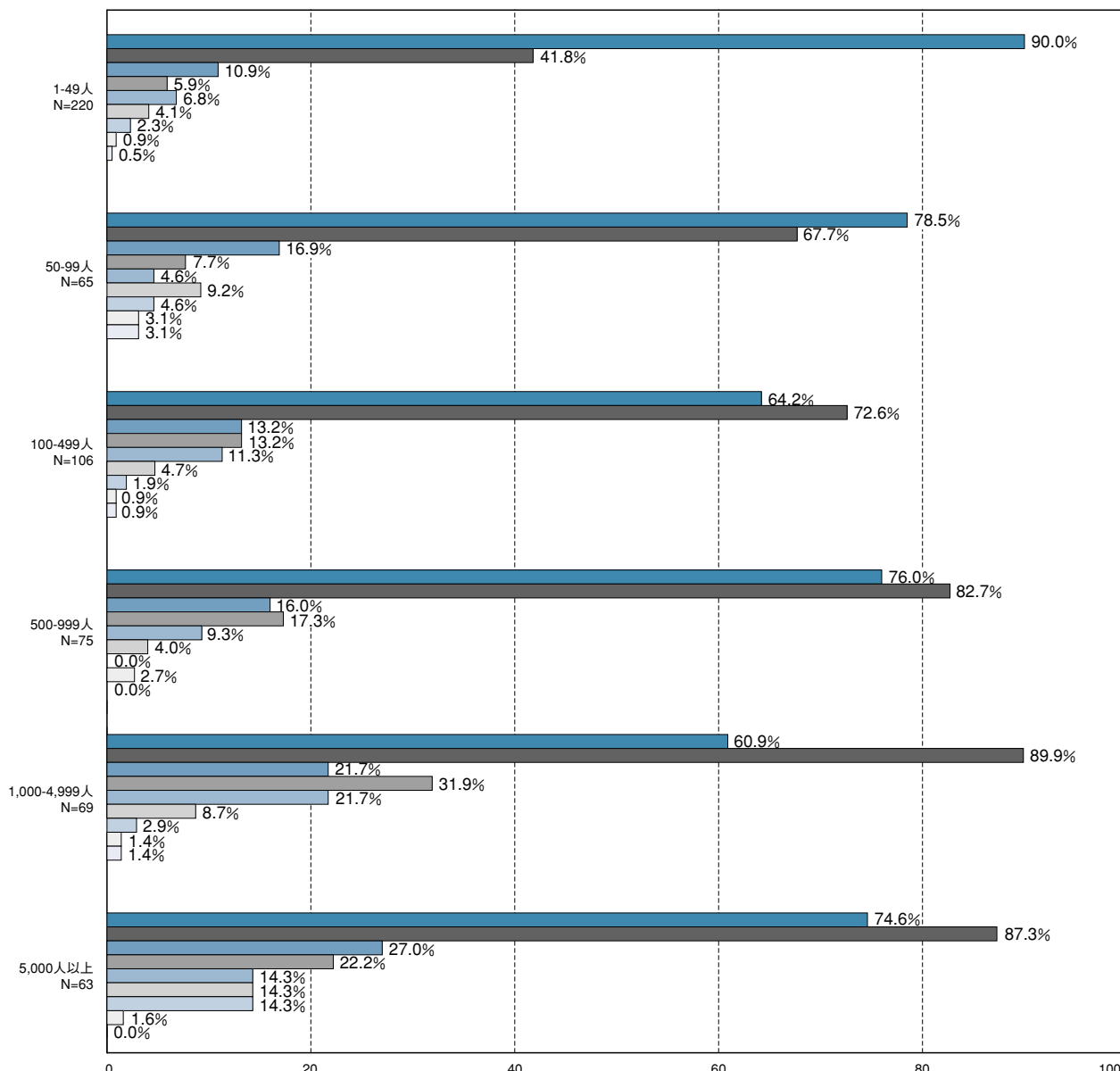
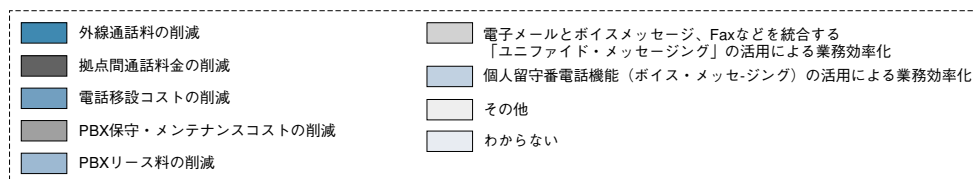
IP電話の導入理由、および期待効果は、通話料金削減を重視した「外線通話料の削減」、「拠点間通話料金の削減」が上位にあげられる。IP電話利用形態で「公衆回線網」としての利用が高かったことなどからもうなすける結果である。また、IP電話導入者とIP電話利用予定者を比較すると、IP電話利用予定者のほうが、期待効果全般の比率が高い。

©Access Media/
impress,2005

IP電話

100人以上の企業では拠点間通話料金の削減を重視

資料3-2-7 従業員規模別 利用者と予定者に聞いたIP電話の導入理由または期待効果（複数回答）



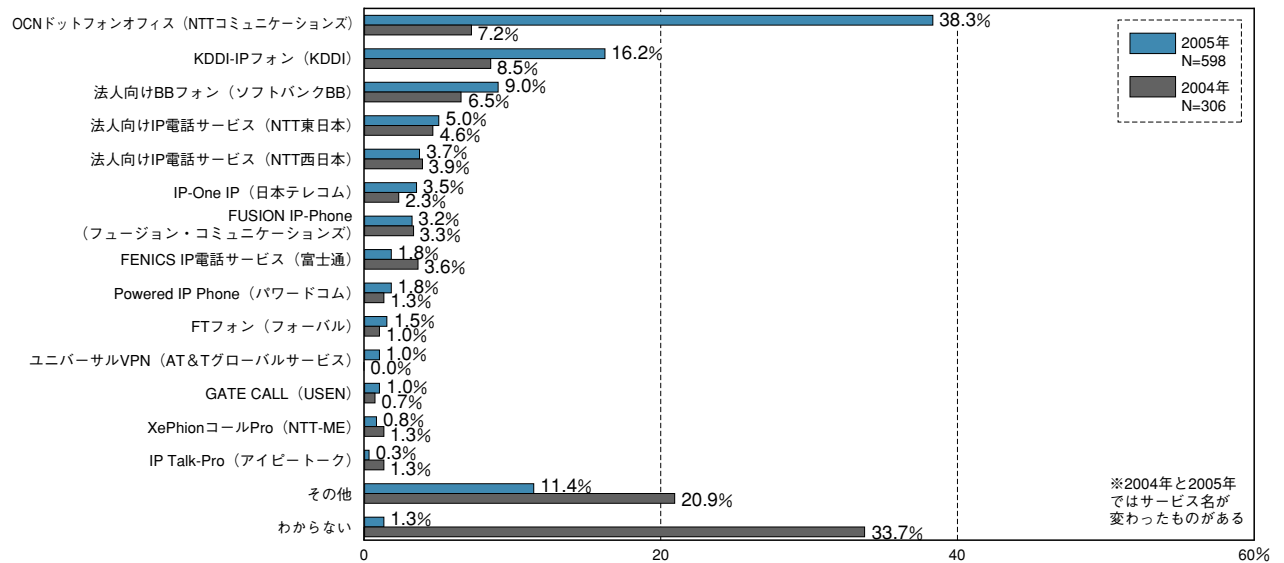
従業員規模別では、資料3-2-5 従業員規模別IP電話の利用形態（p.174）の結果との相関がみられる。「公衆網としての利用」が多かった1-49人、50-99人規模では、導入理由期待効果で「外線通話料の削減」をあげている。また100人以上の企業規模では「遠隔地の事業所を結ぶ内線電話としての利用」がメインであり、「拠点間通話料金の削減」を望んでいる。

©Access Media/
impress,2005

IP電話

利用されているIP電話事業者は出揃った

資料3-2-8 利用している、利用予定のIP電話の事業者（2004年-2005年）（複数回答）

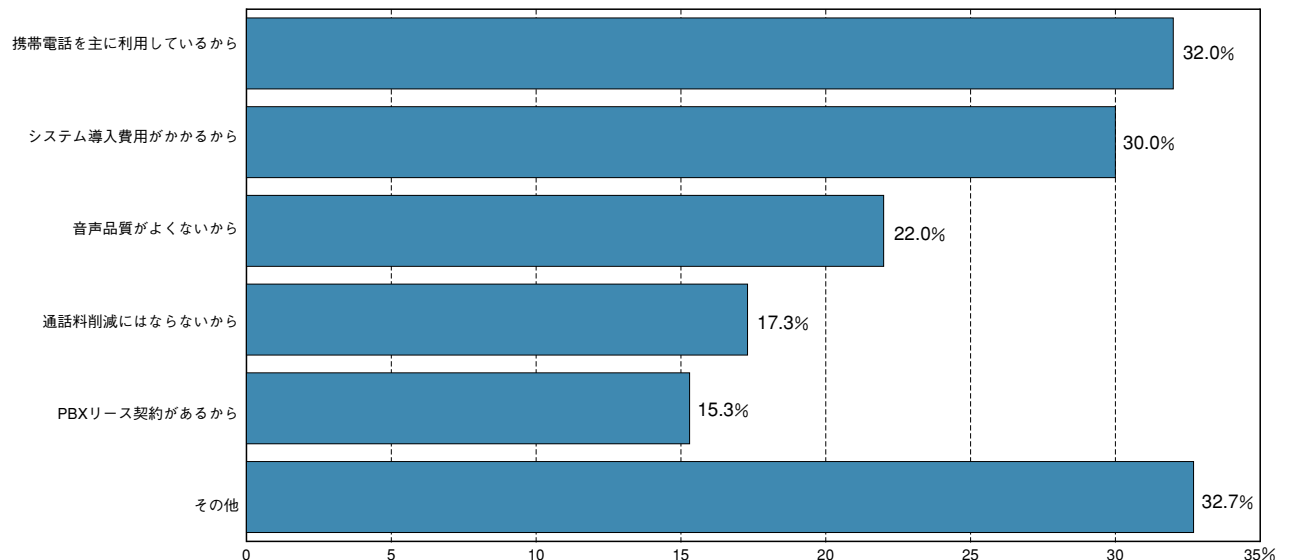


IP電話の事業者は、「OCNドットフォンオフィス」が最も多く38.3%、次いで「KDDI-IPフォン」と続く。これは企業が契約しているISPの順位とも相関がみられ、OCN、DIONは上位2位を占める。2004年との比較では順位に変動はなく、利用されているIP電話事業者は出揃ったといえる。

©Access Media/
impress,2005

非利用理由は初期導入コストのハードルの高さ

資料3-2-9 IP電話の非利用理由（複数回答） N=490



IP電話を利用していない、利用する予定もない490サンプルにその理由を聞いた。「携帯電話を主に利用しているから」、「システム導入費用がかかるから」といった項目が上位にあげられ、初期導入コストのハードルが高いとみられる。また、少数ではあるが、「既存の社内電話網で十分」、「上層部を説得するのが困難」といった意見もあげられた。

©Access Media/
impress,2005



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp